

令和5年度 錦小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となれるように、確かな学力と豊かな心、健やかな体を持ち、これからの社会を力強く生き抜くことができる力をもった、たくましい児童を育成する。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「児童一人一人が、皆とともに生き生きと輝く学校」を目指す。

- ・ 児童一人一人が夢と希望を持ち、明るく活気にあふれる学校
- ・ 気持ちのよい環境で、温かい心で触れ合うことができ、仲間とともに仲良く学べる学校
- ・ 家庭・地域と連携を意識的に図る教育活動を推進し、信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）一人一人を大切に、生涯教育への継続を目指す学校

学校教育のすべての領域と機能を通じて、一人一人の児童について知・徳・体の調和のとれた成長を促すとともに、個人的資質及び社会的資質の伸長を図り、教育目標の具現化に努める。

（2）和と連帯の教育を推進し、家庭・地域と相互に信頼され理解される学校

学校・学年・学級の経営の一貫性を図り、調和と統一のある教育の実現に努め、地域の信頼と要請に応え、学校の使命を遂行し、その活動内容が理解されながら、相互の信頼を図るように努める。

（3）児童のよさを認め伝え合い、確かな学力と豊かな心、健やかな体、これからの社会を力強く生き抜くために必要となる資質や能力をしっかりと育成する学校

児童一人一人のよさを認め互いに伝え合うあたたかな人間関係を通して、すべての教科等で理解の質を高め、「基礎的・基本的な知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指し、『主体的・対話的で深い学び』を目指した教育の充実に努める。

（4）児童が自分の思いを豊かに表現する学校

自尊感情を高めながら、児童の心の教育を推進し、いじめ・不登校・集団不適應など、児童指導上の課題解決に努め、児童自らが思いを表現していけるような態度を育成する。

（5）実態に即した創意ある「社会に開かれた教育課程」の編成と特色ある学校

教職員の協力体制を確立し、学校の実態に即して創造的・計画的に取り組みながら教育課程を精選し、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質や能力の育成に努めるとともに、子どもたちに求められる資質や能力とは何かを地域や社会と共有し連携を進める。

（6）地域に目を向け、地域とともに歩む学校

伝統ある校風を基盤に、児童・地域の実態や思いを踏まえた教育を推進し、保護者や地域とともに健全な児童の育成に努める。特に、小中一貫教育の推進にも積極的に取り組む。

（7）教職員自らが常に学び続ける学校

教職員としての自覚と使命感を持って、異なる年齢の教職員が連携しながら教職員一人一人が常に研究と修養に努めるとともに、現職教育を効果的に進め学習指導の工夫改善を図り、相互に高めあいながら教育の推進に努める。

[陽北地域学校園教育ビジョン] 「学びあい 認めあい 高めあう 陽北地域学校園」

授業や学校行事等に児童が目標をもって取り組む過程で、教師や児童同士が個々の努力や成長を認めることで自己有用感を育み、より意欲的に学習や生活をしようとする態度を養う。

4 教育課程編成の方針

- (1) 学校教育目標達成のために設定された学校経営の理念及び学校経営の方針、地域学校園の教育ビジョン、今年度の重点目標、今年度の努力点の内容や具体策を踏まえ、全教育課程に意図的・計画的・系統的にその具現化を図るように編成する。
- (2) 児童の学校生活の場として設定している、朝の学習や活動、授業時間（各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動）、休み時間（業間、昼休みを含む）、給食の時間、清掃の時間を基本的な枠組みとして教育課程を編成し、各教育活動相互の関連とその配置のバランスを図り、時数を確保する。
- (3) 実施計画を作成するにあたっては、年間的な枠組みとしての2学期制をもとに、教育内容の設定と授業・教育活動時間相互の有機的な関連（カリキュラムマネジメント）、及び効果的な教育活動の規模等について計画的かつ重点化が図られ、柔軟性をもちながら機能的であり、教育活動全体として一貫性を確保しながら調和のとれた内容となるよう留意し、学校教育目標の達成を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - ① 学校本来の目的である学習指導の充実（学力向上）を図ることを最優先と位置づけ、新学習指導要領の趣旨を理解して教科担任制などの指導を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の構築に向けた日々の授業実践及び改善の推進を大きな柱として取り組む。
 - ・ 教材研究、教材開発などの時間を確保するため、学校での諸活動について教職員の働き方改革を実践しながら、活動内容、方法を精選、工夫したり、勤務時間等を短縮したりして、少ない労力で最大限の目標が達成できるように業務の効率化を図る。
 - ② 「令和の日本型学校教育」や「Society5.0」社会の実現を目指して学校と社会が連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実践を進める。
 - ・ 学校経営方針、具体策、本年度の重点目標の具体的な取組の様子などを今まで以上に保護者、地域に広く周知していく。各学級での授業など、授業改善の取組を学校だよりやホームページなどを通して積極的に紹介し、保護者・地域住民の教育活動への理解と協力を促す。
 - ③ 感染症対策を駆使しながら、地域の教育力を生かした教育活動（地域人材や教育資源の活用等）を可能な限り展開し、「地域とともにある学校づくり」を着実に推進していく。
- ④ 陽北地域学校園の小中一貫教育、地域の教育資源の積極的な活用により「学校力」のさらなる向上を図る。

(2) 学習指導

○ 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を積極的、具体的に進める。

- ① 教科担任制を取り入れながら、児童に身に付けさせたい力を明確に認識しておくとともに、授業の目標（めあて・ねらい）を児童自身が設定もしくは確認できるようにし（そこまで児童が身に付いていない場合は教師が明確に示し）、学習計画をもとにした学習の見通しをもたせてから課題解決に取り組ませるようにする。
- ② 思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に、「聞く・話す」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」や「話し合い」活動を充実させる。
- ③ 本時の目標や評価規準に基づいたまとめや振り返りを確実に行うことにより、児童に「何を学んだのか」を実感させるとともに、振り返りに対する具体的な言葉かけを行い、学習意欲や主体的に学習する態度等を養う。
- ④ GIGAスクール構想による「1人1台端末」環境下でのICTの効果的な活用について、検証に基づいた実践を進める。

○ 学びに向かう力等と協働して課題に取り組む態度、読解力の育成を図る。

- ① 授業で実社会や実生活に関連した課題を取り上げるなどして、主体的に学習に取り組む態度などの学びに向かう力等を育む。また、グループでの学習を適切に取り入れるなどして、多様な人々と

互いのよさを理解し、伝え合いながら協働して課題に取り組む態度を養う。

- ② 文章で表された情報を的確に理解したり、正確に読み解いたりして、自分の考えの形成に生かしていけるようにするため、読書活動を通して語彙力の強化を図るとともに、各教科等の授業において、文章の構成や展開について記述を基に捉える学習、文章を読んで理解したことを基に自分の思いを伝え、考えを深める学習などの充実を図る。

(3) 児童生徒指導

- ① 心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりなどを育成するとともに、これからの社会において特に必要となる、多様な他者とともに協働しながら目標に向かって挑戦するたくましさ等を養う。
- ② 学校の実態に即して、いじめをはじめとする問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に向け、教職員の組織的な対応とともに家庭・地域社会・関係機関との連携を強化した取組の充実を図る。

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

- ① 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成するために、自らの健康面や体力面のよさや課題を把握し、自分に応じためあてを設定し、健康（体力・保健・食・安全）について進んで活動に取り組むことができる児童の育成を目指す。
- ② 運動に親しもうとする態度や能力のより一層の育成を目指し、児童の発達段階や実態に応じた運動量を確保した授業、休み時間を活用した運動イベントの企画等の工夫（スポーツ委員会主催等）により運動機会を創出することで、運動の日常化を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止 を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次 宇都宮 市学校 教育推 進計画 後期計 画基本 施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価						
1 ー (1) 確かな 学力を 育む教 育の推 進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、粘り強く学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。 ①児童の課題意識を高め、授業の目標、学習課題、学習計画を明確にして学習の見通しを持たせる指導 ②児童の課題解決への取り組みでの学習状況の的確な見取りと適切な指導・支援 ③「自分の考えを書く活動」の習慣化と、「説明」「話し合い」活動の充実 2 学業指導による「学びに向かう集団作り」の推進を行う。 ①安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団の育成 ②コミュニケーション能力育成を意識した授業づくり 3 家庭との連携を推進し、主体的な学習態度の育成や学習習慣の確立を目指す。 ①宿題の適切な分量・内容の検討 ②自主学習の習慣形成の推進 ③ 個に応じた支援の充実	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>88.6</td><td>89.7</td></tr></table> 数値指標は、児童・教職員・保護者いずれも肯定的回答が9割近く、満足できる結果となった。特に、教職員の肯定的回答が100%であり、どの児童も進んで学習に取り組むことができていると言える。 【次年度の方針】 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を学校課題に掲げ、全職員で取り組んできた。次年度も学年の発達段階に応じて繰り返し指導し、具体的な取り組みに力を入れていく。 また、小集団学習の効果的な活用や、コミュニケーション能力の育成を意識した授業作りを行っていくとともに、児童の個人差に対応したきめ細かい指導にも力を入れていく。 学習習慣の確立には、家庭と連携しながら行っていく。	教職員	保護者	児 童	100.0	88.6	89.7
	教職員	保護者		児 童						
	100.0	88.6		89.7						
1 ー (2) 豊かな 心を育 む教育 の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育を充実させ、心を育む教育の推進を図る。 ①年計に基づく意図的・計画的指導の実践 ・思いやりの心を育むための重点項目の設定 ・行事等との関連を図った指導の展開 ②「特別の教科道徳」の指導法の工夫 ・「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業づくりの実践 2 相手の気持ちを考えた気持ちのよい言葉遣いができる児童の育成を推進する。 ①人権教育充実と人権週間の取り組みの工夫・改善 ②教師の率先垂範による好ましい言語環境の構築	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>94.2</td><td>89.1</td></tr></table> 児童、教職員、保護者共に肯定的回答の割合は全て89%以上であり、目標を十分に達成している。「特別の教科道徳」においての「考え、議論する道徳」を目指した授業づくりの実践を通して思いやりの心が育まれている。 【次年度の方針】 思いやりの心を育むために、引き続き年間指導計画に基づいた意図的・計画的な指導を実践するとともに、教師が模範となって好ましい言語環境の構築に努める。	教職員	保護者	児 童	100.0	94.2	89.1
教職員	保護者	児 童								
100.0	94.2	89.1								
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 自尊感情を育み、個性を十分に発揮させるために、児童一人一人のよさを認め励ます教育の充実を図る。 ①褒めて伸ばす教育の推進 ②自己の成長を振り返る場の設定 ③児童相互に認め合う場の設定 ④将来の社会的自立に向けた指導・支援の充実による自己指導能力の育成 2 日々の生活の中で達成感や成就感を味わうことができるよう、個に応じたねらいや活動の設定を工夫する。 ①挑戦意欲を喚起する課題の設定 ②競い合い高め合う望ましい学級集団づくりの推進 3 具体策の更なる充実を目指した取り組みを行い、家庭への啓発を図る。 ①学年便りやHP等を活用した情報発信 ②学級懇談会の充実	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>82.6</td><td>89.4</td></tr></table> 教職員、児童いずれの肯定的回答も目標数値以上であった。児童の肯定的回答は5.3ポイント下回った。これは、あきらめずに頑張っているが、その成果を感じ取れていないからであると考えられる。 【次年度の方針】 児童が将来に対してより明確なビジョンをもてるように、設定した具体策の更なる充実を図っていく。また、引き続き、教職員の研鑽により、競い合い高め合う望ましい学級集団づくりの推進を図っていくとともに、学年だよりやHPを活用した情報発信等、今年度の取り組みを更に充実させて、家庭への啓発を図っていく。引き続き、「宮・未来キャリアパスポート」の効果的活用も図る。	教職員	保護者	児 童	100.0	82.6	89.4
教職員	保護者	児 童								
100.0	82.6	89.4								

1 ー (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 心身ともに健康で安全な生活を送るための資質・能力を備えた児童を育成するために「元気アップ教育」の充実を図る。 ①進んで健康や体力の保持増進に努める児童育成に向けた日常的な体育活動の充実 ・元気っ子体力チェックによる実態把握と改善策検討 ・チャレンジカードを活用した主体的な体力づくりの推進 ②望ましい食習慣形成に向けた、意図的・計画的な食育の推進 ・給食時の校内放送を活用した食育活動の展開 ・学校栄養士と連携した「食に関する指導」の充実 ・学校保健給食委員会を活用した組織的な取り組みの推進 ③安全な社会づくりに貢献できる資質・能力の育成に向けた安全教育の充実 ・特別活動（学級活動・学校行事）の体験的学習の充実 ・各教科等における安全に関する指導の充実	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>児 童</td></tr><tr><td>95.5</td><td>91.3</td><td>94.7</td></tr></table> 児童、教職員、保護者の肯定的回答 80%以上の目標値に対し、どの対象者でも 90%台であり、十分に達成されていると言える。左記の取組の他に、衛生面に配慮した給食の実施や、市教育委員会作成のチャレンジカードへの参加も効果的であった。 【次年度の方針】 引き続き、左記の取組を継続して行っていくとともに、さらに進んで健康や体力の保持増進に努める児童の育成を目指し、日常的な体育活動のより一層の充実を図る。 学校内だけでなく、家庭での自分の健康や安全についての様子を振り返るための取組を積極的に行い、児童や保護者の意識を高められるようにしていく。	教職員	保護者	児 童	95.5	91.3	94.7
教職員	保護者	児 童							
95.5	91.3	94.7							
1 ー (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 授業で実社会や実生活に関連した課題を取り上げるなどして、主体的に学習に取り組む態度などの学びに向かう力等を育む。 2 グループでの活動を適切に取り入れるなどして、多様な人々と互いのよさを理解し、伝え合いながら協働して課題に取り組む態度を養う。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>児 童</td></tr><tr><td>95.5</td><td>91.4</td></tr></table> 教職員・児童、全て目標値を上回った。今年度は、徐々にコロナ前の取り組みもできるようになってきた。さらに、計画的にグループ活動を進めることができるようになった結果である。 【次年度の方針】 毎年継続して内容を計画的に進めてはいるが、総合の年計を見直した計画を実施し、職業観につながる体験ができる学習を取り入れる。	教職員	児 童	95.5	91.4		
教職員	児 童								
95.5	91.4								
2 ー (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	1 主体的に英語でコミュニケーションしようとする児童の育成に向け、外国語活動の充実を図る。 ①英語のやりとりを中心とした授業実践の推進 ・教材研究の工夫 ・ALTとの打合せや連携の工夫 ・学習形態の工夫 ②生きた英語に触れる機会の充実 ・ALTとの交流の場の工夫 ・学校行事等へのALTの参加 2 外国語活動に向けた環境整備の推進 ①教材等、備品の管理の工夫 ②校内掲示の工夫	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>児 童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>77.8</td></tr></table> 職員の肯定的回答は 100%だったが、児童の肯定的回答は 7 割程度だった。活動に意欲的に取り組み楽しんでいる様子は見られるが、英語の力の個人差が大きく、苦手意識を持っている児童も見られる。その結果が数値として表れていると思われる。 【次年度の方針】 新学習指導要領に示された内容をしっかりと指導できるよう、担当教諭と連携を図り進めていく。また、より一層ALTとの連携を図り、指導の打ち合わせ等も工夫・改善しながら行っていく。	教職員	児 童	100.0	77.8		
教職員	児 童								
100.0	77.8								

	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 児童が郷土宇都宮に対する理解を深められるよう、発達段階に応じて郷土に関する学習を推進する。 ①第3学年以上で開始される「宇都宮学」を積極的に活用し、郷土理解を深め、愛情を育む指導の工夫 ②特別活動（学校行事等）における体験的な学習の場の設定 ③地域資源の発掘と、効果的活用の推進 2 「百人一首」に親しむことのできる学習の推進 ①高学年国語科での授業実践 ②学級活動での体験的な活動の場の設定 3 「宇都宮学」の保護者向け啓発活動を充実する。 ①学年便りやHP等を活用した積極的な情報発信	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>児 童</th></tr><tr><td>86.4</td><td>74.5</td><td>88.1</td></tr></table> 児童・保護者の肯定的回答は、昨年度より増えている。児童と教職員の肯定的回答は 8 割を超えている。LRT の開通や宇都宮学をきっかけに郷土に対する関心が高まった。 【次年度の方針】 児童が郷土宇都宮に対する理解を深められるよう、発達段階に応じて、各教科での学習を進めていく。また、総合的な学習の時間に行われる「宇都宮学」も効果的に活用し、郷土に関する学習を推進していく。道徳などで取り上げられている郷土に関する学習を推進し、広めていく 今後も、保護者が児童の成長や学びを感じ取ることができるよう、啓発活動にも力を入れ、授業参観等の他にも、学校だよりや学年だより、ホームページ等で積極的に発信していく。	教職員	保護者	児 童	86.4	74.5	88.1
教職員	保護者	児 童							
86.4	74.5	88.1							
2 - (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	1 情報活用能力の育成を図るために、体系的な情報教育を推進する。 ①意図的・計画的な「情報モラル教育」の実践 ②授業における ICT 機器の効果的な活用 ③プログラミング学習の充実 2 図書資料を有効に活用した学びを充実させるために、学校図書館の整備を推進する。 ①学習・情報センターとしての図書館の利用指導の充実 ②学習ニーズの把握に基づいた関連図書情報の提供 ③市立図書館と連携した授業の実践	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>84.8</td></tr></table> 教職員・児童いずれの肯定的回答が 8 割を超えていて、満足できる結果と言える。ただ使えるという段階から効果的に使うという意識に変化してきている様子も見られる。 【次年度の方針】 プログラミング学習と関連付けながら、今年度の取り組みをもとに工夫・改善に努める。また、新学習指導要領に応じた図書の整備を更に進めると共に、専門スタッフと連携を図りながら、図書館の整備を推進していく。	教職員	児 童	100.0	84.8		
教職員	児 童								
100.0	84.8								
2 - (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	1 「持続可能な開発のための教育 (ESD)」を推進するため、新カリキュラムの開発・研究に努める。 ①「持続可能な社会」の関連学習洗い出し・生活科・総合的な学習の時間の活動の見直し・学校行事や児童会活動の見直し ②児童の実態に応じた具体的な活動内容の検討 2 「持続可能な社会」に対する児童の関心を高めるための特色ある教育活動の実践に努める。 ①授業開発として、ESD の取り組み事例実践 ②PDCA サイクルによる新カリキュラム検討 ③「持続可能な社会」の、教職員の意識改革のより一層の推進とSDGs（持続可能な開発目標）の効果的活用	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>児 童</th></tr><tr><td>81.8</td><td>86.4</td></tr></table> 教職員・児童とも目標値を上回った。 【次年度の方針】 引き続き、「持続可能な社会」について、教職員の意識を高める取組を続けるとともに、学年での実践を重ねながらSDGs（持続可能な開発目標）の一層の効果的活用にも努めていく。また、より多様な取組や情報を収集し、新たな教材開発に関する研修を進める。	教職員	児 童	81.8	86.4		
教職員	児 童								
81.8	86.4								
3 - (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	1 児童一人一人の教育的ニーズを十分に把握して児童理解に努めるとともに、組織を活用した指導の充実を図る。 ①教育相談や保護者との懇談を通じた児童理解の推進 ②校内支援委員会を活用した組織的指導の充実 2 困り感を抱えた児童が自信をもって生活できるよう、かがやきルームにおける指導の充実を図る。 ①ケース会議を活用した指導目標・指導の手立て等の検討	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th></tr><tr><td>95.5</td></tr></table> 教職員の肯定的回答割合の目標値を上回った。児童との教育相談や保護者との個人懇談などを通して、児童一人一人の教育的ニーズを把握し、個に応じた児童理解に努めている成果の表れである。 【次年度の方針】 今後も、成果の上がっている取り組みを継続するとともに、校内支援委員会を活用し、組織的に指導の充実を図る。また、今年度同様、かがやきルームを有効活用し、より児童に寄り添った個別指導を行う。	教職員	95.5				
教職員									
95.5									

3 - (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	1 道徳の時間を要とした道徳教育を充実させ、人権感覚の醸成を図る。 ①道徳の時間の指導の工夫 ②土曜授業を活用した授業公開 2 全校体制による組織的・計画的ないじめ防止策の積極的な推進を図る。 ①いじめゼロ強調月間の取り組みの充実 ・「いじめゼロ集会」の内容の工夫・実施と保護者への公開 ・学年便り等を活用した積極的な情報発信 ②教育相談、Q-U 検査等を活用した実態把握の工夫 ③年4回のいじめアンケート実施と結果の効果的活用 ④迅速で適切な対応のための、報告・連絡・相談の徹底	B	【達成状況】 <table><tr><th>保護者</th><th>児童</th></tr><tr><td>79.6</td><td>96.0</td></tr></table> 教職員、地域住民は100%、児童が96%と高い肯定的回答であった。しかし、保護者の肯定的回答は79.6%と昨年度より8ポイント下回り、保護者のみ目標を達成していない。児童が主体となっていて行っているいじめゼロ集会や、人権旬間での標語づくりや絵本の読み聞かせなどが児童に効果的であったと思われる。また、教育相談でしっかりと話を聞く機会と時間を確保していることや、保護者へのこまめな連絡を行っているが、学校からの発信が足りないとする。 【次年度の方針】 道徳の授業の充実により、人権感覚の醸成を図るとともに、今年度に引き続き、様々な取り組みを形骸化させることのないよう、さらに前年度より効果的になるようにホームページや児童指導日より等を利用して、いじめ対策に取り組んでいることを伝えていく。また、いじめゼロ強調月間での各取り組みや教育相談、Q-U 検査等を実施し、全校体制による組織的ないじめ防止策により一層の推進を図る。	保護者	児童	79.6	96.0		
	保護者	児童								
79.6	96.0									
A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	1 学年・学級経営計画に基づいた意図的・計画的な指導を通して、学級活動の充実を図り、明るく活力に満ちた学級風土づくりを推進する。 ①教育相談・Q-U 検査の効果的な活用 ②学業指導事例集の活用 ③教師と児童の協働・共遊の推進 2 欠席状況共有シートや日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。 ①欠席状況共有シートや日々の様子の記録等を活用した情報共有 ②室登校支援等、児童の実態に応じた支援策の工夫	B	【達成状況】 <table><tr><th>保護者</th><th>教職員</th><th>児童</th></tr><tr><td>88.2</td><td>100.0</td><td>95.4</td></tr></table> 肯定的回答の割合は、児童、保護者ともに目標数値を上回っている。これは、取り組みの成果が表れた結果となった。しかし、保護者の肯定的回答が約5ポイント、昨年度より下回った。 【次年度の方針】 教育相談や Q-U 検査の効果的な活用、学級活動の充実等により、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合う学級づくりに励む。支援や配慮を要する児童に対しては、実態に応じた支援策を工夫し、教職員間の共通理解に基づいた組織的計画的な対応を推進する。	保護者	教職員	児童	88.2	100.0	95.4	
保護者	教職員		児童							
88.2	100.0	95.4								
3 - (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	1 児童会活動等の工夫・改善を通して、児童の主体的な活動の場を確保し、楽しく、活気あふれる学校づくりを目指す。 ①集会活動・縦割り班活動のもち方の工夫・改善 2 日常の指導において、児童が自主性や主体性を発揮できる場の確保に努める。 ①学級活動の充実による、明るく、活力のある学級風土づくりの推進 ②体験活動を重視した学習活動の積極的な導入	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>児童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>88.8</td><td>96.4</td></tr></table> 教職員・児童・保護者いずれの肯定的回答も目標数値を上回っている。感染症対策が緩和され、児童会活動や学校行事など、感染症に配慮しながら工夫をしている。日常の指導において、児童が自主性や主体性を発揮できる場を設定したり、明るく、活力のある学級風土づくりに励んだりしていることが効果的であったからだと思われる。また、「みんなの時間」を設定した効果があった。 【次年度の方針】 次年度も、引き続き効果が上がった取り組みを継続していく。児童は意欲的に活動していたので、今後も児童会活動等を精選し、児童が主体的に活動できる場を提供していく。また、今後の感染状況を見ながら、可能な範囲で、体験活動を重視した学習活動の導入を図る。 また、児童が活動するための時間を保障する。	教職員	保護者	児童	100.0	88.8	96.4
教職員	保護者	児童								
100.0	88.8	96.4								
3 - (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化										

4 - (1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	1 学校課題を中心とした全校体制による授業研究を通して「分かる・できる授業」作りを積極的に推進する。 ①単位時間及び単元の指導法の工夫・改善 ・課題提示・発問等の工夫 ・振り返りの場の工夫 ②「一人一研究」実践による指導法の工夫・改善 2 児童一人一人の学習状況を的確に把握し、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。 ①少人数指導やI.Tによる指導の工夫・改善 ②朝の学習を活用した基礎学力の向上 ③かがやきルームの効果的な活用	B 【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>保護者</th></tr><tr><td>97.0</td><td>83.3</td></tr></table> 教職員・児童いずれの肯定的回答も9割を上回っており、十分満足できる結果と言える。 【次年度の方針】 次年度も教材研究に努め、「分かる・できる授業」作りを積極的に推進していく。また、専門スタッフとの連携を更に強化し、個に応じた指導の一層の充実を推進していく。学校での学習への取り組みの様子を学年だより等を活用して保護者にも知らせていく。	児童	保護者	97.0	83.3		
児童	保護者								
97.0	83.3								
4 - (2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	1 専門スタッフを効果的に活用するために、学校内外のコミュニケーション環境の整備に努める。 ①管理職（副校長）による総合的な連絡調整の実施 ②業務担当教職員との綿密な打ち合わせの実施 ③各スタッフによる関係教職員への積極的な情報提供の推進 2 職員会議や打合せの機会を活用し、専門スタッフとの情報交換を密にする。	B 【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th></tr><tr><td>95.5</td></tr></table> 教職員の肯定的回答は数値目標を大きく上回った。昨年度に引き続き、組織的な取組の成果が評価につながったと考えられる。 【次年度の方針】 これまでの実践の成果を踏まえ、各取組の一層の充実を図ることで、児童一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援が意図的・計画的に展開できるようにする。また、SC等、外部の専門機関との連携も密にし、打ち合わせ等の有効活用など、多面的な指導を継続的に実践していく。	教職員	95.5				
教職員									
95.5									
4 - (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	1 児童への指導を充実のため、多様な専門性を有する学校スタッフを活用し、学校の組織力を強化する。 ①学校業務の見直しと新たな校務分掌組織づくり ②専門スタッフの役割の明確化 ③専門スタッフの校務分掌組織への位置付けの明確化 2 多様な専門性を有する学校スタッフと連携し、効率的・効果的な教育活動の推進を図る。 3 本来の教育活動を効果的に行うため、教職員の働き方改革を推進する。 ①長時間労働改善のための業務の精選・見直し ②作業の工夫による業務の効率化と分散化の推進	B 【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th></tr><tr><td>95.5</td></tr></table> 目標を十分に達成した。働き方改革の意識の高まりによって業務改善に対する意識付けが浸透してきた成果であると考えられる。 【次年度の方針】 これまでの実践の成果を踏まえ、結果に甘んじることなく、取組の一層の充実を図り、教職員の業務改善に向けた意識の高揚を図り、更なる業務の効率化を推進するよう努力する。また、リフレッシュデー等具体的な実践の活性化を図る。	教職員	95.5				
教職員									
95.5									
5 - (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 地域学校園共通のねらいに基づいた、学習指導・児童指導を積極的に推進する。 ①ねらいの明確化と共通理解の場の工夫 2 学校園研修や児童生徒指導強化連絡会等の機会を通して、相互理解を推進し、指導法の工夫・改善を図る。 3 小中合同のあいさつ運動や中学校訪問の機会を通して、児童生徒相互の交流を推進する。 4 地域学校園の取り組みについての啓発を積極的に推進する。 ①学校便りやホームページ等を活用した、小中合同あいさつ運動や地域学校園研修の様子等、小中一貫教育に関する情報の積極的な発信	B 【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>児童</th></tr><tr><td>95.5</td><td>83.6</td><td>89.7</td></tr></table> 児童、教職員、保護者の肯定的回答 80%以上の目標値に達した。昨年度に引き続き、今年度も宮っ子チャレンジウィークや中学校教員の訪問授業、中学校訪問を実施することができ、「小中一貫・地域学校園」の取組が学校だより等により、保護者に周知され、成果が表れている。 【次年度の方針】 地域学校園のねらいを明確にした上で授業を行う。家庭学習週間を継続するとともに、小中の乗り入れ授業の実施をする。 また、中学校と連携を図りながら、家庭学習に力を入れる期間を揃えたり、小中合同のあいさつ運動を行ったりしていく。また、学校園研修や児童生徒指導強化連絡会などを通して、児童生徒の共通理解に努めるとともに、小中の乗り入れ授業を行っていく。さくら連絡網やホームページ等を活用しながら、実施した内容を積極的に発信する機会を増やしていく。	教職員	保護者	児童	95.5	83.6	89.7
教職員	保護者	児童							
95.5	83.6	89.7							

5 - (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	1 学校の公開や情報の積極的な発信・提供を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。 ①コロナ対策の継続の上での、オープンスクール等による学校公開の推進 ②学校便り、学年便り、保健便り、食育便り、図書館便り等の工夫と定期的発行 2 地域団体・地域人材の積極的な活用を通して、地域と共に歩む魅力ある学校づくりを推進する。 ①生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進 ②新たな地域教材開発の推進	B	【達成状況】 <table><tr><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>87.5</td><td>100.0</td><td>93.0</td></tr></table> 児童・保護者・地域住民いずれの肯定的回答も目標値以上だった。地域コーディネーターとの連携に基づいた学校支援ボランティアの活用や、地域に根差した特色ある教育活動の推進が行われている点が評価されたと考えられる。 【次年度の方針】 地域の教育力を更に生かせるよう、「宇都宮学」との関連を図った活動を展開し、内容を充実させながら地域学習素材や人材の活用の一層の推進を図っていく。	保護者	地域住民	児 童	87.5	100.0	93.0
保護者	地域住民	児 童								
87.5	100.0	93.0								
6 - (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は 利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	1 児童と教師の協働による日常の清掃活動等を充実させ、環境の美化に努める。 ①縦割り班清掃活動の充実 ・清掃強化週間の有効活用 ②児童会活動や奉仕活動の充実 ③地域協議会と連携した緑化活動や地域清掃の推進 2 安全点検結果に基づく、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境づくりを推進する。 ①日常点検、定期点検等の安全点検の充実 (ア) 関係職員と連携した計画的な修繕の実施	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td>100.0</td><td>87.5</td><td>100.0</td></tr></table> 教職員、保護者、地域住民の肯定的回答の割合は全て 80%以上であり、目標を大きく上回った。各安全対策や、修繕等の必要が生じた際の、迅速かつ適切な対応の効果が上がっている。児童の学校評価アンケートのコメントからも、学校の環境がきちんと整備されていることが分かった。 【次年度の方針】 次年度以降も縦割り班清掃を引き続き実施し、日頃から学校をきれいにしようという意識を児童と教職員がもち、環境の美化に努める。 また、定期的な安全点検に基づき、修繕が必要な場合には迅速な対応を心掛け、児童がより一層安心して生活できる環境を整えていく。	教職員	保護者	地域住民	100.0	87.5	100.0
教職員	保護者	地域住民								
100.0	87.5	100.0								
6 - (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	1 情報教育を推進するために、I C T機器の利用環境整備に努める。 ①1人1端末の効果的な活用 ②I C T機器の集中管理の徹底 2 図書資料を有効に活用した学びを充実させるために、学校図書館の整備を推進する。 ①課程に即した図書選定の実践 (イ) 図書館と連携した希望図書の有効活用	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th></tr><tr><td>100.0</td></tr></table> 肯定的回答が 100%となっている。ICT 機器活用の研修が行われたり、情報の発信がなされたりして、全職員が活用することができた。 【次年度の方針】 引き続き、情報を共有しながら取り組んでく。	教職員	100.0				
教職員										
100.0										
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	1 家庭や地域との連携を一層強化し、あいさつ運動の積極的な推進を図る。 ①児童会を主体としたあいさつ運動の積極的な推進 ②小中一貫教育の取り組みとして中学生と共同で行うあいさつ運動の推進 2 あいさつに関する取り組みとその成果や課題を積極的に情報発信し、家庭及び地域との連携を図る。 ①学年便り等を活用した積極的な情報発信 ・実施前の周知と啓発 ・実施直後の取り組み状況の報告	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td>95.5</td><td>87.1</td><td>100.0</td></tr></table> 肯定的回答の割合は、教職員、保護者、児童全て 85%以上で目標を達成している。地域住民の数値が昨年度より約7ポイント高くなっている。 【次年度の方針】 児童会を主としたあいさつ運動について、今後も進め方の工夫をした取組を進め、場に応じたあいさつの仕方を呼びかけていく。あいさつに関する取り組みとその成果や課題を、学校だより等を活用して積極的に情報発信し、家庭との連携を図るとともに、あいさつの重要さの指導を工夫していくことで改善を図る。	教職員	保護者	地域住民	95.5	87.1	100.0
教職員	保護者	地域住民								
95.5	87.1	100.0								

	B2 児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 基本的な生活習慣育成の徹底を図るとともに、規範意識を高める指導の充実を図る。 ①「錦の生活」に基づく組織的な指導の充実 ・年間2回の振り返りと自己評価結果の効果的な活用 ②生活当番組織を活用した日常生活指導充実 ・朝の会や帰りの会を活用した児童の主体的な活動の推進 2 地域学校園統一のきまりを意識した学習指導・生活指導の充実を図る。	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>97.0</td><td>92.4</td></tr></table> 児童、教職員、保護者共に肯定的回答の割合は全て90%以上であり、目標を十分に達成している。児童が「錦の生活」を順守し落ち着いて学校生活を送っていることが要因だと思われる。さらに、「錦の生活」は、児童にとって行動基準を意識しやすくなっているのではないかと考えられる。 【次年度の方針】 「錦の生活」を、より児童の学校生活に即したものにし、左記の主な具体的な取り組みを一層充実させる。当番になる教職員一人ひとりの意識を高め、各々が責任をもって取り組む。	教職員	保護者	児 童	100.0	97.0	92.4
教職員	保護者	児 童							
100.0	97.0	92.4							
陽北 学 校 園 共 通	B3 児童は、進んで運動をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、進んで運動している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 児童が各運動領域で目標とする力を身に付けるため、全学年が「準備運動サーキット」に取り組み、モジュール型の補強運動を実施する 2 運動の系統性や動きの特性を考慮し、自己目標の達成を重視した授業づくりの充実を図る。 3 動きづくりや技能の習得「できる」ことを目指した授業だけでなく、前提として体の動かし方やうまくなるためのコツが「わかる」授業を展開（ITC活用等）する。	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>児 童</th></tr><tr><td>90.9</td><td>70.1</td><td>81.1</td></tr></table> 児童、教職員の肯定的回答の割合は 80%を上回ったが、保護者の割合が下回った。 温暖化などの環境の変化や習い事の多様化など生活スタイルの変化などにより、児童の運動時間が限られることが多く、児童、保護者ともに進んで運動している実感を得にくい状況である。校内では、授業中に左記の取組を行うとともに、児童会が主催する校内ドッジボール大会などを実施することで、休み時間に体を動かす機会を設けることができている。 【次年度の方針】 今後も引き続き、休み時間に児童会が主体となった運動に親しむことができるような取組を行ったり、時間や場所などに制限されずに、家庭で保護者と児童が一緒にできる運動を紹介したりするなどしていく。また、授業中では、サーキット運動の更なる充実を目指し、児童の課題に即した内容に改善したり、学んだことを休み時間や家庭で実践してみたいと思えるような授業を展開したりしていく。	教職員	保護者	児 童	90.9	70.1	81.1
教職員	保護者	児 童							
90.9	70.1	81.1							
本 校 独 自	B4 学校は読書好きな心豊かな児童の育成に努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、読み語りや『ふれあい読書会』・読書週間などが行われていて、読書に親しむことができる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	1 読書指導を充実させ、自ら進んで様々な本に接しようとする児童を育成する。 ①「ふれあい読書会」の充実 ②読み語りボランティアとの連携 ③童話館ボランティアとの連携 ④「家読のすすめ」の定期的な実践 2 年2回（春・秋）の読書週間を活用し、読書意欲を高める催しを工夫して行う。 ① 図書委員会による活動の工夫	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>児 童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>94.3</td><td>90.4</td></tr></table> 教職員・児童・保護者いずれの肯定的回答も 90%を超えている。読書活動が充実していると言える。 【次年度の方針】 引き続き、家読を定期的実践し、読書指導を充実させていったり、ボランティアとの連携を図り、図書委員会を中心に活発な読書活動を行ったりしていく。	教職員	保護者	児 童	100.0	94.3	90.4
教職員	保護者	児 童							
100.0	94.3	90.4							

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【全体的な傾向】

全体アンケートの7割程度の質問において、肯定的回答割合が市平均値より高い状況にある。また、学校評価書に設定した評価項目24ほとんどの項目で評価指標の目標値を達成していた。昨年度を5ポイント以上下回った項目もあったが、5ポイント以上上回った項目もあり、回答率も昨年よりやや上昇していることから、家庭や地域の関心が高まっていると言える。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～9・B1，2）】

- ・A1「主体的に学習に取り組む」からA9「持続可能な社会」についての保護者の肯定的回答割合が総じて高くなった。教職員・保護者・地域住民・児童すべてにおいてほとんどの項目が、目標値より10ポイント近く肯定的回答割合が高く、児童が意欲をもって日々の学習及び健康安全な生活に取り組んでいる状況がうかがえる。
- ・A8，20「ICT機器や図書等の活用」「準備」については、目標値を達成しているが、プログラミング教育推

進や市の重点施策学校図書館の充実を踏まえ、計画的に授業へ取り入れ分かる授業の展開を図りながらも、学習ソフトや授業支援クラウドの活用により個に応じた指導を充実させる。

・B2「児童がきまりやマナー遵守」については教職員・保護者・地域住民・児童のすべてで90%を上回り、落ち着いた学校生活を送っていることがうかがえる。今後さらに、児童への働きかけや生活のきまりの見直しを含めて全教職員による組織的な指導に努めていく。

【目指す学校の姿（評価項目：A10～20）】

□すべての評価項目において目標値を達成している。特に、A15「不登校を生まない学級づくり」やA17「明るく活気がある学校」のポイントは教職員・保護者・地域住民・児童のすべてで目標値を超えていて、教職員が児童一人一人の良さを認め励ます指導に取り組み、児童が互いに認め合う学級づくりに努めて明るく生活している状況であることがうかがえるが、そんな中にある保護者の肯定的回答が下がった点について学校全体として本年度の取り組みについて見直しを図る必要がある。

・A15とA16「協力して業務に取り組む」「業務の効率化」についてはいずれも95%を超え、十分目標を達成しているが、次年度の各種教育活動において、感染症拡大後様々な活動を単に復活させるだけではなく、見直しを図りながら推し進めなければならないことから、実施後の成果と課題を明確にしてカリキュラムマネジメントを推進するとともに、業務効率化の共通理解を十分図りながら協力して取り組んでいく必要がある。

・A17「小中一貫教育」については保護者・地域住民・児童・教職員すべてで昨年度の値を上回っているが、中学校の各種情報も可能な範囲で提供できるよう努めるなど、更なる取り組みを進めていく。

【本校の特色・課題等（評価項目：B3、4）】

○今年度新規に『陽北地域学校園』共通で設定したB4「進んで運動している」については、児童の肯定的回答割合は80%を超えているものの、学年学級差が大きく、取り組みだけでなく、意識の違いについても見直ししていく必要がある。

・本校独自で設定したB4「読書指導」については教職員・保護者・地域住民・児童すべてで90%を上回っており、本校の読書への意識の高さがうかがえる。

7 学校関係者評価

【いじめを許さない指導や不登校を生まない学級経営について】

・いじめ対策委員会や教育支援委員会等、定期・随時開催して、様々な事案について早期対応に努めているが、個に応じた指導を含めて今後も丁寧につけていく必要がある。また、家庭への啓発についてはさらに取り組みを進めなければならない。

【分かりやすいきめ細かな指導について】

・ICT機器を授業に多く取り入れるようになったことから、保護者の目に触れる学習物が減少している。また、児童らの授業中のICT機器の活用について保護者に分かりにくくなっている。そのため、ノートからタブレットへシフトして活用している状況や、授業におけるICT機器活用の様子などを保護者に啓発していく必要がある。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿】

○新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の視点から、ICT機器や図書等の活用等を計画的・効果的に授業へ取り入れるなどして授業改善を図り、分かる授業を一層展開することにより学力向上を図る。

○児童・保護者がいじめのない安心安全な学校生活が送れるよう、今までの取り組みを継続するだけでなく、学校だよりやHPを活用して情報発信していく。

【目指す学校の姿】

・各種教育活動等の成果と課題を明確にするなどして、カリキュラムマネジメントを推進するとともに、業務効率化の共通理解を十分図るなどして、新学習指導要領に基づく学校運営及び教育活動を円滑に実施する。

○教職員が児童一人一人の良さを認め励ます指導に取り組み、児童の自己有用感を高め、児童が互いに認め合い、高め合う学級づくりに努める。

・本校の特色である「読書活動」は、今後とも特色ある活動として継続するだけでなく、児童の主体的活動を一層取り入れながら推し進めていく。

・錦小地域協議会を要として、街の先生や学校支援ボランティア等の協力による教育活動支援の円滑な実施に努め、地域とともにある学校づくりを推進する。

○陽北地域学校園における連携協力を図るとともに、進んで運動する児童の育成を目指して指導を推し進める必要がある。